

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①令和4年度厚真町小中一貫教育研究大会
- ②令和4年度文化祭・図書フェスティバル開催／第58回北海道文化財保護功労賞
- ③令和4年度厚真町教育委員会表彰／子ども育成連絡協議会
- ④厚真郷芸保存会／10月定例教育委員会／二十歳のつどい開催案内
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動報告

令和4年度 厚真町小中一貫教育研究大会

11月11日(金)、厚真町中央小学校を会場として令和4年度厚真町小中一貫教育研究大会が開催されました。「自立して新しい時代を生きる力を育み 未来を語れる子の育成」を研究主題に、町内外から教職員、助言者の方を招き、当日は約140人の参加がありました。

午前に、1次公開として厚真中央・上厚真小学校による算数科・英語科・ふるさと教育。2次公開として厚真・厚南中学校による理科・英語科・ふるさと教育の公開授業を行いました。厚真中学校によるふるさと教育の公開授業では、厚真の未来について語るパネルディスカッションを行い、町内の事業所の方々や役場職員にも講師として参加していただきました。



午後には、ふるさと教育・学習・英語教育・特別支援教育の分科会を行い、午前に参観していただいた公開授業をもとにそれぞれの実践について協議しました。町内外の教職員の方々から、授業に関してたくさんの貴重な意見が出され、今後の厚真町小中一貫教育の推進につながる、充実した分科会となりました。

本町では、平成31年度から小中一貫教育がスタートしました。今回の研究大会では、4年目となる本町での小中一貫教育の成果検証の機会となり、大変有意義な大会となりました。これからは義務教育9年間を通して、子どもたちに身に付けてほしい素質・能力である「つなぐ力」「拓く力」を確実に育成するために、小中一貫教育の一層の推進を目指していきます。今回ご参会いただいた教職員・助言者・事業所の方々、そして、ご参観いただいた町民の皆さんにお礼申し上げます。

上厚真小学校5年生考案のお弁当

会場では、事前予約制で上厚真小学校の5年生が考案したお弁当の販売もありました。

シイタケと黒豆を使用した混ぜごはんなど、厚真の特産品をふんだんに使用したお弁当となっており、購入していただいた方にとっても満足していただける1品でした。

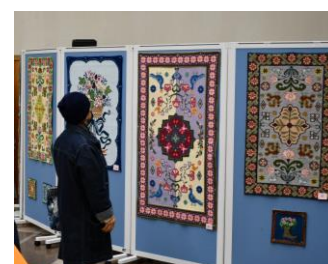


令和4年度厚真町文化祭 開催！

11月3日（木）と4日（金）の両日、厚真町総合福祉センターと厚南会館を会場として令和4年度厚真町文化祭が開催されました。

展示部門には、文化団体、サークル、町内の学校や町民の方から、両会場合計921作品と多くの展示がありました。今年度は、別会場での展示品も鑑賞できるようにと、スライドショーの投影も行われ、来場した方々により芸術の秋を堪能してもらえました。

また、4日（金）に開催された芸能発表会では、町内から7つの団体が出演し、日ごろの活動や練習の成果を存分に発揮しました。



↑ 厚南会館
← 総合福祉センター
文化祭当日の展示

図書フェスティバル



マーブリング体験中の参加者

11月3日（木）、青少年センターを会場として図書フェスティバルが開催されました。当日、「図書室すごろく」「マーブリング体験&ノート作り」など合計5つのコーナーが開催され148人の来場がありました。

水に絵の具を垂らして模様を作るマーブリングの体験コーナーでは、好きな色を2色選び模様を作りました。同じ色を使用しても、絵の具の垂らし方や竹串を使用し模様に動きを付けることで自分だけの個性あふれる模様を作ることができました。体験後には模様を写した紙を表紙にして作ったノートに参加者にお渡ししました。

第58回北海道文化財保護功労賞を受賞 幌内神楽保存会

11月14日（月）に一般財団法人北海道文化財保護協会による第58回北海道文化財保護功労賞授賞式が厚真町総合福祉センターで開催されました。この功労賞は北海道内の文化・文化財の保存・保護などに貢献された個人や団体に授与されるものです。

幌内神楽は1910年（明治43年）に岩手県からの開拓移住者の望郷の念により幌内地区に根付き、伝えられてきました。保存会は1972年（昭和47年）に発足し、今年で50年を迎えます。

毎年の幌内神社秋季例大祭やあつま田舎まつり本祭で披露されている厚真町の無形民俗文化財です。

授賞式では、佐藤勝重会長が「先人たちへの敬意とともに受け継いできた地域の誇り、幌内神楽を中心とした地域の団結力、絆の源として伝え続けたい」と受賞の喜びを語っていました。



第50回あつま田舎まつり演舞



功労賞を受ける佐藤会長



第1回あつま田舎まつり

令和4年度 厚真町教育委員会表彰

野澤 政博さん、宮崎 章弘さんを表彰

10月27日（木）厚真町総合福祉センターで、令和4年度厚真町教育委員会表彰式が行われました。新町の野澤政博さん、表町の宮崎章弘さんに遠藤教育長から感謝の言葉とともに、表彰状が授与されました。各受賞者の功績は下記のとおりです。

野澤政博さん

平成19年から15年余にわたり厚真町青少年健全育成委員会委員長として本町の青少年の健全育成に貢献

宮崎章弘さん

平成19年4月から平成24年3月まで厚真町体育指導委員として、平成24年4月から厚真町スポーツ推進委員として15年余にわたり本町のスポーツ振興に貢献



「お願いだからゴミすてないで！」

ドライバーに呼びかける看板設置

10月22日（土）、厚真、安平両町子ども会育成連絡協議会が共同で、厚真町幌里の道道千歳鷗川線沿いに「お願いだからゴミすてないで！」の看板を設置しました。

当日は、両町から小中学生代表10人と子ども会育成者など合わせて25人が参加し、子ども会育成者を中心に掘削した縦・横1mの穴に、子どもたちが30分かけて土を戻して土台を固定し、ドライバーが見えやすい高さに看板を設置しました。

呼びかける言葉や看板の大きさ（縦1m35cm、横90cm）、素材（反射板）など、工夫を凝らすことで、子どもたちの熱い思いがドライバーに伝わる看板にしようと、町内の美彩工房（佐藤泰夫代表）に制作を依頼しました。

厚真町子ども会育成連絡協議会の尾谷純司会長は、「胆振東部地震前と比べて、交通量が増え、道路上のゴミが多く捨てられるようになった。両町の子どもたちが看板を設置することで、ドライバーが改めて社会のマナーを再認識するきっかけになってほしい」と看板設置への思いを語っていました。

上厚真小学校6年生の館山太雪くんは「大きな穴に看板を設置する作業は大変だったけど、看板を見て、ゴミを捨てるドライバーが減ってほしいです」と感想を述べ、同じ路線の安平町側に看板を設置する予定の安平町子ども会育成連絡協議会の内田昌利会長からは「両町が設置した看板を見て、他の道路のごみも減ってほしい」と設置に関して思いを述べてくれました。



厚真町の団体紹介 ～ 厚真郷芸保存会 ～

厚真郷芸保存会では現在25人のメンバーが太鼓の練習や演奏を行い下記の通り活動しています。幼児から社会人まで幅広い世代が在籍しており、町内のみならず地方のイベントや大会にも数多く参加し活躍しています。

今年、厚真郷芸保存会は現在の名称で活動してから10周年を迎え、12月4日(日)に厚真町総合福祉センターで記念公演として「厚載の響」を開催します。指導者である畑嶋麻由美さんから「10周年の節目に、今のメンバーで何かできればと思い今回開催することになりました。また、震災から4年が経ち、当時温かい応援や声をかけてくださった方たちへのお礼として感謝の気持ちを込めて演奏します」と開催に込めた思いについて聞くことができました。当日は、入場券が必要となりますので、詳細に関しては下記連絡先へお問い合わせください。

また、メンバー募集もしていますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

活動場所：児童会館

練習日時：

・ 幼児～小学生

(水) 18:00～19:30

・ 大人(中学生以上)

(月) 18:30～20:30

(水) 19:30～20:30

連絡先：090-6694-3459



10月定例教育委員会

10月27日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆報告事項

令和4年度小学校プール利用の実績について／9月5日(月) 鶴川漁協厚真支所ホッキ部会から学校給食センターにホッキ貝200kgの寄贈。9月15日(木) 学校給食で提供／10月5日(水) JAとまこまい広域農協から学校給食センターに新米「ななつぼし」50kgの寄贈。10月6日(木) 学校給食で提供／10月定例校長会について／厚真町小中一貫教育研究大会について／イナウ製作体験／カムイノミ・イチャルパ／第22回健康ふれあいマラソン大会／放課後子ども教室特別教室「あつまっ子商店街」／森のひろば2022※雨により中止

◆協議

新庁舎周辺整備に係る大型天体望遠鏡の存廃について

◆その他

町立学校における新型コロナウイルス感染症の感染状況について

★問合せ

教育委員会学校教育G

☎27-2494



心の教育推進キャンペーン

二十歳のつどい開催案内 —今年度から名称が変わります—

令和4年4月から民法が改正され、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。これをうけて、本町では例年通り、今年度20歳になる方々を対象にして、「二十歳のつどい」と成人式から名称を変更して実施することとしました。

11月中旬から下旬にかけて対象者へ案内を送付しておりますので、ご確認をお願いします。なお、案内が届いていない場合は、お手数をおかけしますが、下記までお問い合わせをお願いします。

【二十歳のつどい詳細について】

日時	令和5年1月8日(日) 10:00～受付 10:30～記念写真撮影 10:45～式典 11:30～アトラクション
対象	平成14年4月2日～平成15年4月1日までに生まれ、本人または両親が町内に在住している方 (町外へ転出している場合も参加可能です)
申込み	参加申込用紙に必要事項を記載し、返信用封筒に入れ、12月2日(金)までに郵送してください。

【問合せ】

教育委員会社会教育グループ

☎27-2495

図書室だより

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

TEL 27-2321 (土日)

令和4年度図書フェスティバルご来場ありがとうございました

11月3日、厚真町文化祭に合わせて図書フェスティバルが開催されました。

今年は、図書室の床にマス目を作り、サイコロの出た目で進んでクイズに答える「図書室すごろく」を行いました。クイズは、3つのコース(やさしい、普通、難しい)に分かれており、「三びきのやぎのがらがらどん」や「てぶくろ」など絵本や児童書からの出題や厚真高校生が考えた謎解き問題など幼児から大人まで楽しめる内容になっていました。答えをお子さんに教わるお父さんもいて親子で楽しいひと時を過ごされていました。

来場された方の中には、図書室に初めて来た方もおり、様々な本や雑誌があることを知っていただくことができました。これをきっかけにお気軽にお立ち寄りくださると嬉しいです。

また、11月1日から4日間、厚真高校2年生の4人の生徒が図書室で、職場体験を行いました。

本の貸出など図書業務のほかに謎解き問題の作成や図書室の装飾など図書フェスティバルの準備のお手伝いをいただきました。生徒さんがお勧めする本のポップを展示していますので、是非、ご覧になってください。

今年はどうな本を読んだかな？

2022年分読書手帳の申し込み受け付けます

2022年1月から12月まで公民館図書室で貸出した本・雑誌の記録を本の形にしてお渡しします。記載される項目は、本のタイトル、著者、貸出返却日です。ご希望の方は、青少年センター図書室カウンターまで直接お申し込みください。お渡しは、12月26日(月)以降になります。

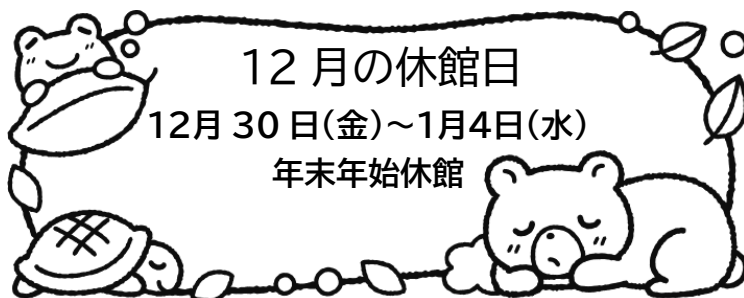
申込期間:2022年11月28日(月)~12月23日(金)

※他図書館の本や、除籍した雑誌などはリストに反映されません



貸出図書の返し忘れはありませんか？

「あつま」「北海道立図書館」のシールが貼ってある本は図書室の本です。見つけた際は、廃棄せずに図書室までご返却ください



12月の休館日

12月30日(金)~1月4日(水)

年末年始休館

- 青少年センター図書室開館時間
午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)
午前9時から午後7時(火・木)
- 厚南会館図書室
午前9時から午後5時(月~日)
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となります。

12月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは

15日(木)10時から10時半まで 場所:青少年センター図書室です。

☆ 放課後子ども教室活動報告 ☆

放課後子ども教室では、通常教室（平日の活動）のほかに、土日や長期休業の期間を利用して、人や自然、産業など地域資源をより身近に体感できるプログラムを、特別教室として開催しています。10月には『お店屋さんをやってみよう！あつまっ子商店街』という1プログラム2日間の活動を行いました。さかのぼること8年前、2014年から2017年まで夏休み特別教室として、『あつまっ子カフェ』というプログラムを企画・実施していました。今回は、農作業体験で収穫をさせてもらったお米を、自分たちで食べるだけではなく、地域に還元する活動に活かさないか、と地域の方々に相談して歩いたところ、厚真町商工会青年部から協力の手を差し伸べていただきました。青年部員の方を講師に迎え、子どもたちがお店の仕組みや接客の心得を学び、町の高齢者福祉施設の夏祭りでお店を出させてもらうプログラムを企画しました。座学で学んだ後は、看板やPOPの作成、仕入れ先からの商品の受け取り、会場設営、接客販売、会計まで一連の流れを子どもたちが担い、売り上げから経費を差し引き、利益が上がれば給料として分配する、という内容です。残念ながら胆振東部地震や、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ここ数年、実施できていないプログラムでしたが、今回、出店会場として『鎮守の杜マルシェ実行委員会』のみなさんからお声がけをいただき、10月2日（日）、16日（日）の2日間にわたって取り組むことになりました。これまでの学びから実践へという流れはそのままに、今回は新たな挑戦として、参加対象を小学生だけではなく中学生まで拡大し、商品・サービスの内容や価格設定も子どもたち自身に決めてもらいました。商品の企画会議には、地域の大人たちもアドバイザーとして参加。子どもも大人も真剣に意見を出し合い、自分の特技を活かしたサービス、子どもから大人まで幅広い年代のお客さんを想定した商品ラインナップを決定していききました。予算10,000円の中で仕入れを行い、売り上げと利益を予測しながら、イベントの当日、お客さんをお迎えしました。最初はドギマギしていた子どもたちですが、次第に本来の元気の良さを発揮して、最後までやり抜くことができました。お客さんの視点に立つことの大切さに反省点は残りましたが、自分の考えや思いを形にする面白さと、目標を達成する喜びを感じてほしいという思いは伝わったと思います。子どもたちの発想を支え、ともに実現していく教育活動は今後も広く求められていくものと思います。子どもたちと目標を合わせ、心に寄り添い、悩みや喜びを共有しながら「やってみたい！」を「やったらできる！」に変えていくことが、これからの私たちの目標のひとつです。今回、子どもたちだけではなく、活動を運営する側にとってもチャレンジな内容でしたが、様々な可能性を見ることができました。マルシェの実行委員の皆さま、講師やアドバイザーを務めていただいた皆さま、ご来場いただいた皆さま、そして、子どもたちの頑張りに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

